

肝Co こんな活動も

薬局薬剤師さん



全国の肝炎医療コーディネーター（肝Co）から集めた肝Co活動。予防からフォローアップまで、ステップごとにまとめました。普段使いに、また、活動のステップアップにご利用ください。

● は、患者さんとその家族へ向けてできること（対象が患者さんとその家族）

予防

肝がん肝硬変予防のため
肝炎の正しい知識を
多くの方に普及する

共通の
活動

- 自分の家族や知り合いなど身近な人に、分かりやすい言葉で正しい肝炎の知識（感染経路、感染対策など）を伝える。
- 肝臓病教室や市民公開講座の開催、参加をする。（全国民へ肝炎について正しい知識を普及する機会を設ける。）
- 肝疾患相談窓口（肝疾患診療連携拠点病院・肝疾患専門医療機関）の案内をする。
- 患者さんから相談された時に、専門外のことも、肝Co仲間に相談し解決する方法を探る。
- 患者さんの気持ちを傾聴する。
- 奈良宣言のリーフレットを渡す。
- 肝炎ウイルス検査の結果について確認する。
- 予防接種状況について確認する。
- 患者さんや職員に肝Coの受講を勧める。仲間を増やす。（肝Coの育成）
- 院内（または院外）で行われている「肝臓病教室」への参加を勧めて肝臓について学べる機会を案内する。
- 肝炎啓発のポスターを掲示する。（たとえば、C型肝炎は特効薬があり副作用が少ないことや、治療費の助成制度が利用できることなど。）
- 肝Coのバッジなどをつけて肝Coの存在をアピールする。
- 世界肝炎デーなどの地域イベント・マルシェなどに参加し肝炎について啓発する。：声かけ、資材活用（ティッシュやうちわなどの配布、啓発マスクやピンバッジ着用など）
- 上司に肝Co活動（自分がどんな活動をしているのか等）について説明し理解を得る。
- 肝炎チームを結成、参加し、仲間を増やす。
- 院内の職員にむけ肝炎の知識、検査の必要性などを普及啓発する。
- 院内の医療安全や感染対策委員会などで、拠点病院と連携し受講必須の研修会を開催する。
- 肝Co活動報告を院内・院外で行う。地域での研修会、学会発表（活動報告、研究発表など）をする。
- 病院ホームページから情報を発信する。
- 職場で参加するイベントの際に、肝炎ウイルス検査受検推奨の内容を記載したTシャツや帽子を着用して参加する。
- 肝疾患診療連携拠点病院と各医療機関・行政が連携し啓発活動をする。
- 市町村、地下鉄駅、道の駅、薬局へポスター掲示、リーフレット設置を依頼する。
- 肝炎に必要な知識をアップデートする。（定期的な勉強会、研修会への参加）

薬局薬剤師さん
だからこそ



- 健康食品・サプリメントの対応をする。
- お薬相談会等での肝炎の治療に関する相談を行う。
- 健康測定などで内臓脂肪測定等から、SLDリスク者の早期発見につなげ、受診につなげる。
- キャンペーン期間を設け、その間は全ての人に肝炎についての資料を渡したりするなど、肝炎についての知識を高めてもらう。
- 学校薬剤師として校内での啓発活動を行う。

- 薬局内で運動、栄養についてリーフレットの配布や勉強会を実施する。
- 薬局にポスターを貼る。
- 肝疾患治療薬と相互作用のある薬を一覧表にまとめる。

受検

肝炎ウイルス検査の 受検勧奨を行う

共通の 活動

- 患者さんの気持ちを傾聴する。
- 未受検者に肝炎ウイルス検査を勧める。
- 無料肝炎ウイルス検査の周知、手続き方法を説明する。
- 無料肝炎ウイルス検査ができる施設の案内をする。(検査実施施設の一覧表を作成、配布、掲示する)
- 院内イベントなどで無料肝炎ウイルス検査を実施する。
- 院外での啓発イベントで無料検査機関の周知をする。
- 肝炎ウイルス検査を受けられた方に検査結果が伝えられているか確認し、医師につなげる。その際、検査結果通知カードなどを渡す。
- 肝炎ウイルス検査は陰性でも陽性でも検査結果に関わらず通知しなければならないことを周知する。
- 受診者の付き添いの方にも肝炎ウイルス検査の受検を勧める。
- ウイルス性肝炎の患者家族に検査を勧めると同時にワクチンについても説明し接種を勧める。
- サルコペニア判定をする。
- 生活習慣病の方に健康診断や、腹部超音波検査を勧める。
- 術前検査での肝炎ウイルス検査結果説明の実施について主治医に情報提供し患者への結果説明と肝臓専門医への紹介につなげる。
- 無料肝炎ウイルス検査の手続き方法が分かる人につなぐ。(職員への周知)
- 受検勧奨のポスターを掲示する。
- 職員に対し、患者さんへの受検勧奨を依頼する。
- 肥満など生活習慣病をもっている患者さんに FIB-4index の検査値を伝える。
- 受検勧奨資材の見直しをする。
- 自分の担当の患者さんの受検歴を調べる。

薬局薬剤師さん だからこそ



- 健康測定などでウイルス性肝炎の検査歴を確認し、未受検者には肝炎ウイルス検査を勧める。
- 肝機能が悪い患者さんがいたら、検査歴を確認し、未受検ならば検査を勧める。
- 糖尿病の患者さんで腹部超音波検査をしたことがない方には腹部超音波検査を勧める。
- 肝臓関係の市販薬、サプリ等を買求める方に肝炎ウイルス検査が未受検ならば肝炎ウイルス検査を勧める。

受診

肝炎ウイルス検査 陽性者に肝臓専門医での 精密検査を勧める

共通の 活動

- 患者さんの気持ちを傾聴する。
- 症状がない肝炎患者に受診の必要性を説明する。(症状がない間にも進行しているのですので、すぐに受診するように説明)
- 最新の治療方法について、患者さんに紹介し受診に対する心理的なハードルを下げる。
- 肝炎ウイルス検査が陽性の患者さんに、肝臓専門医がいる医療機関の受診を勧める。
- 肝炎の患者さんで未治療の方がいたら受診を勧める。
- C型肝炎で、過去にインターフェロンの治療をされ、完治していない患者さんに受診を勧める。
- インターフェロン後の副作用が不安で再治療拒否をされる方に対し、DAA 治療は副作用が

少ないことを伝える。

- 初回の精密検査費用の助成制度について説明、手続きをサポートする。
- 糖尿病の患者さんは肝がんのリスクが2倍と言われているため腹部超音波検査をしていない場合は検査を勧めたり、Fib4-index 測定し、脂肪肝との関係とハイリスクであることを説明する。
- 眼科や整形外科などの術前検査の際に、肝炎ウイルス検査が陽性の患者さんには、肝臓専門医がいる医療機関を勧める。
- 肝臓専門医がいる医療機関の一覧を作成し、周知する。
- 問診やカルテから、受検歴と肝炎ウイルス検査が陽性の患者さんの拾い上げを行う。

薬局薬剤師さん だからこそ



- 肝臓専門医に受診していない高度肥満の患者さんがいたら受診を勧める。
- 問診や投薬時の対応からの肝炎の既往の確認を行い、未受診者には受診を勧める。
- 健康診断や人間ドックの結果等を基にした受診を勧める。
- 抗がん剤を使用している患者さんにフォローの電話を行い体調、副作用について確認し、状態が悪い場合は受診を勧める。(テレフォンフォローアップ)
- 薬局窓口で相談を受けて、受診や肝 Co を紹介する。

受療

肝炎の治療を 勧める

共通の 活動

- 患者さんの気持ちを傾聴する。
- 過去にインターフェロンなどの治療歴のある患者さんでウイルス排除されていない方に、再度治療を勧める。(医師の確認後)
- インターフェロンを行った患者さんの DAA 治療に対する不安について傾聴する。
- 治療薬を飲み忘れないための方法を患者さんとともに考える。
- B 型肝炎の患者さんに対しステロイドや免疫抑制剤、抗がん剤を使用する場合、B 型肝炎の再活性化のチェックをする。
- 仕事と治療の両立で悩んでいる患者さんのサポートをする。(両立支援)
- 医療費助成制度の説明や相談に対応をする。
- ウイルス性肝炎の治療中から治療後も定期検査が必要であることを伝える。
- 入院、外来患者さんに、治療完遂までの継続の重要性を説明、サポートをする。
- 肝炎ウイルス治療において、副作用のほとんどない内服のみでできること、C 型肝炎の治療はウイルス排除ができること、B 型肝炎はウイルスの活動性を抑えることができることを伝える。

薬局薬剤師さん だからこそ



- 処方箋に基づく服薬指導、コンプライアンス向上、副作用チェックを行う。
- 問診や投薬時の対応からの肝炎の既往で未治療者には治療についての情報提供を行う。
- 薬の不安について相談を受ける。
- 服薬支援をおこない、飲み忘れがないように患者さんの背景を聞き対策を考える。
- アミノ酸製剤などの飲みにくい薬の服用方法について説明する。
- 内服を分割してよいか等服用方法についての相談を受ける。
- かかりつけ薬剤師として担当し、服用を継続していただけるようフォローしていく。
- 肝炎、肝硬変治療薬服薬中の患者さんにご家族のメンタルケアを行う。
- ○ 抗がん剤を使用している患者が B 型肝炎再活性化の対象でないかを

チェックする。

- ○生活パターンを確認し、服薬困難なら処方変更を医師に提案する。
例) エンテカビルなど食事の前後2時間空ける必要がある薬など。
- 服薬上の問題、副作用などのチェックをして、気になる点が見つかったらトレーシングレポートを用い報告する。(病院との連携)

フォローアップ

肝がんの早期発見のため
定期的な検査を勧める

共通の
活動

- 肝炎ウイルス陽性歴のある患者さんに定期検査を必ず受けるよう説明する。(治療後の発がんリスクを実際の数値で示す。)
- 肝疾患の患者さんになぜ定期検査が必要であるかを説明する。
- 定期検査に來られてない患者さんに連絡する。
- 他の疾患で受診されている患者さんで過去に肝炎ウイルス治療歴のある患者さんの定期検査歴を確認する。
- アルコール依存症の患者さんや家族への対応、支援をする。
- 市民公開講座などを開催し、定期検査の必要性を周知する。
- 治療の初期段階から定期検査の必要性を説明する。
- 定期検査費用の助成制度について説明する。(対象者)

薬局薬剤師さん
だからこそ



- 肝炎の既往のある患者さんに定期検査受診の確認を行う。
- 健康診断の定期的な受診を勧める。
- 他の疾患で來られた場合でも、過去に肝炎既往のある患者さんには血液検査の結果を見せてもらい、一緒に肝機能の値を確認する。
- ○検査を受けたことを忘れている場合もあるため、「肝炎ウイルス検査受けました」のシールを作成し、結果が陰性でも手帳に貼ってもらう。(お薬手帳の活用)
- 定期検査受診の案内リーフレットを薬局に置く。